

(様式第4号)

上田市総合計画審議会（第3回産業経済部会） 会議概要

1 審議会名	上田市総合計画審議会（第3回産業経済部会）
2 日時	令和元年12月17日 午後1時30分から午後5時00分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザ2階 第1会議室
4 出席者	宮下正明部会長、和田宏一副部会長、今井慎一郎委員、高野松宣委員、田島裕志委員、花岡欣二委員、宮島真弓委員、柳島隆二委員、山崎孝子委員
5 市側出席者	大矢商工観光部長、工藤農林部長、宮島商工課長、長田地域雇用推進課長、青木観光課長、佐藤観光課付政策幹、小井戸農政課長、片山農産物マーケティング推進室長、小澤森林整備課長林業振興担当係長、田中土地改良課長、大平移住交流推進課長、下島広報タイプ ^① ・プロモーション課タイプ ^② ・プロモーション担当係長、斎藤高齢者介護課高齢者支援担当係長、西川農政課農業振興係長、水野商工課商工振興担当係長、加々井政策企画課政策企画担当係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和元年12月20日

協 議 事 項 等

1 開 会（商工課長）
2 あいさつ（部会長）
3 議事 (1) 会議概要の確認について (事務局) 事前にお送りした第2回部会会議概要について、訂正等あれば、会議終了後お知らせいただきたい。 (2) 分野別意見聴取について (事務局) 分野別意見聴取の概要について説明 (組 合) 別所温泉旅館組合から現状・課題や市の施策に対する意見・提言等を発表 (協 会) 鹿教湯温泉観光協会から現状・課題や市の施策に対する意見・提言等を発表 (委 員) 地域おこし協力隊にはどのような人材を求めているか。 (組 合) 行政と別所温泉旅館組合とのつながりがとれるような人材、また、地域のエキスパートとなる人材を期待している。 (協 会) 募集の時に、ある程度やってほしいことを示せば良いが、あまり、特化することなく、観光一般的な視点をもっている人材が良いと思っている。 (事務局) 今後、要件として参考にさせていただきたい。 (事務局) 観光行政においては、市の観光課、(一社)観光協会の組織があり、観光協会の体制を充実し、プロフェッショナルな人材を育てていきたい。新しい計画の中にしっかり入れていきたい。また、「地域おこし企業人」制度を活用し、ミッションとして、別所温泉、鹿教湯温泉の振興をすでに活動してもらっている。このように、民間の力やネットワークを活用して、観光振興の充実を図りたい。リゾートテレワークなど、温泉街の空き家を使って、外から人材が集め、新たな事業、交流が生まれることを期待するそんな事業も新しい計画に入れてある。 (委 員) 意見聴取とは話がそれるが、空き家の問題で、更地にするのではなく、放置している方が、固定資産税が安く済むと聞いたことがあるが、もし分かれば教えてほしい。 (事務局) 固定資産税の課税上、宅地は評価額が高く税額も高いが、住宅が建っている場合には住宅特例により土地の固定資産税が軽減される。古い空き家でも特例が適用されてしまう課題に対し制度が変更され、認定空き家の場合には、軽減制度は適用しないという流れになっている。 (事務局) 宅地建物取引業協会との連携した空き家バンクやまちなか空き店舗バンクなどの事業も行っており、出来るだけ空き家を減らしていく取組をしている。

- (委員) 長野県の里山の整備事業を利用する、または利用したい事業はあるか。
- (組合) 森林税を使って登山道の整備ができないか検討している。外国人の方は、レンタサイクル、登山・トレッキングなど、多く利用しているが、今のところ看板等の整備が出来ていない。
- (協会) 鹿教湯は山が険しいので、なかなか難しいが、今、名所を巡るスタンプラリーをやっており、これは好評である。ここに展望台に行く遊歩道などがあり、このようなものに使えるとありがたい。また、国有林がすぐ近くにあるので、これを使えればありがたい。
- (3) 「後期まちづくり計画」素案について
- (事務局) 策定シート【3-1-1】、【3-1-2】に基づいて説明
- (委員) SDGsはどこかで文書化されるか
- (事務局) 総合計画は、編、章、節で構成されており、委員さんのお手元にある策定シートに関連する施策を入れてあるが、SDGsは、17の目標の下に169のターゲットがあり、さらに細かい施策に関連づける作業があり、事務局で作業を進め、最終的には関連表を作る予定である。
- (委員) 森林環境譲与税の関係で、上田市ではどう考えているか。都市農村交流など、首都圏や姉妹都市などを使いながら、交流をするなど、後期まちづくり計画へ入れ込むことはできないか。
- (事務局) 今後、森林環境譲与税の有効的に活用できるように検討したい。参考として意見をお聞きする。
- (委員) 達成度をはかる指標・目標値の学校給食の件だが、難しいことは理解したが、細かい話だが、実績値より下げるのはいかがか。40.1%、41.0%なのか検討いただきたい。各主体に期待される主な役割分担の学校・大学などだが、高度な研究、分析等専門性を活用やエビデンスなどももう少し分かりやすい表現のほうがよいのでは。多面的機能支払交付金事業の取組で農振農用地におけるカバー率をどこまで進める予定なのか教えてほしい。
- (事務局) 学校給食の目標値だが、委員さんのおっしゃるとおり検討する。また、文言についても、もう少し分かりやすい、具体的な表現に修正する。
- (事務局) 農振農用地の目標値は、8割程度が最大値と考えている。
- (委員) 学校給食の目標値の件だが、目標値では、割合で示しているが、学校給食自体の満足度などの指標は、他の部会で設定してあるか。
- (事務局) 農林部としては、地産地消を大きな目標に掲げ、ここで、指標として学校給食での地元農産物の使用割合を目標値に使っている。教育委員会で、満足度等の指標やアンケートを取っているのかは、手持ちの資料では把握していない。調べてお伝えする。
- (委員) 農家の方が、高齢化が進んでおり、地産地消を進めることで、負担になっているのではないか。また、農業の担い手確保は、かなり難しいと思うが、どのように考えているか。
- (事務局) 農業の担い手不足の特効薬はない。農地を守る。食料を生産していかなければいけないなどは、引き続き行っていく中、「農福連携」という新しい考え方を入れていくことやNPA (New People to the Agriculture) プロジェクト (構成団体：上田市、長和町、青木村、JA、(有)信州うえだファーム、長野県) として、新たに就業する方に対して、財政的な補助や相談、研修を受けていただくなどの事業を行っている。スマート農業などの機械化、IT化などにより、少しでも担い手を確保する取組をすすめている状況である。
- (事務局) 策定シート【3-2-1】、【3-2-2】、【3-2-3】に基づいて説明
- (委員) 「現状と課題」の欄に、中心商店街への新規出店者の支援はあるが、既存の商店のことについても検討いただきたい。
- (事務局) 既存店舗への支援については、真田丸放送の前に、一時的に行った店舗の改修費の支援があった。空き店舗を減らすだけでなく、空き店舗を作らないという視点も非常に大切であり、現状、制度融資などがあるので、充実を図るなど、既存商店への視点も踏まえて、新計画については考えていく。
- (委員) 中心市街地への回遊は大切な視点と思うが、全体的なデザイン、動線は考えているか。
- (事務局) 街なかの整備については、サントミュージアムや上田城など主要な6か所を結び、ハード、ソフト面から回遊を考えてきたところである。上田城から商工会議所までの道路整備などを行う予定となっている。今後の取組として、文化財や歴史的建造物を活用した街なみ整備も検討している。柳町、北国街道などを使ってという視点もあると思う。

(委員) 策定シート【3-2-2】の5のうち、学校・大学などの期待される役割があり、「子供たちのものづくり産業に対する興味・関心を高めます。」とあるが、我々は、AREC などによって、大学との繋がりが持てるが、情報発信など、情報が縦割りではなく、大学、金融機関、AREC など、横の繋がりを活かして、なにか形として出来るものがあれば良いと思う。また、教育委員会などとの連携が出来れば良いという感想を持った。

(事務局) 学校等との連携については、現在、中学生の職場体験学習などを行っているが、双方とも課題があり、今後キャリア教育推進協議会を使って、課題の整理、連携をしていきたいと考えている。

(委員) 北国街道を使った街なか回遊を考えてほしい。駐車場の補助を見直ししてほしい。個々の店が魅力を上げていくことが大切だと思う。

(事務局) 郊外の大型店舗などが進出するなど、なかなか街なかを歩く人が減っていることも事実だが、街なかの喫茶店が増えて、それらを巡るのが楽しみという話も聞いている。また、デイサービスやコワーキング施設、アップルパイの専門店等の出店や、観光客の皆さんが歩いて楽しめる店舗も増えており、上田城や柳町に来た観光客を街なかに回遊できるようにと考えている。また、観光バスを止める場所がない点などの課題もあり、それを解消するため、柳町の近くに駐車場を整備出来ないか検討をしている。中心市街地にお客さんを寄せることも研究していく必要があると考えている。さらに、観光課でも街歩きのパンフレットや看板などを作っているが、そこに連担性がない状況である。ハード面のみだけでなく、SNS等の情報発信が重要になる。商店の自助努力も必要であり、ブランディング支援事業補助金を新設し、いろいろな商品を開発するだけでなく、マーケティングするなどの経費についても助成をしている。

(委員) あるお店で、ハガキの大きさの店舗紹介や観光案内があった。お客さんが持って帰れるものもいいのかと思う。

(事務局) 参考にしていきたいと思う。

(委員) キーワードは人を呼ぶことだと思うが、温泉街と商店街との連携は出来るか。

(事務局) 信州うえだ観光協会の中には、グルメブックなどを作っているのでもらってはいるが、先ほどお話にあったカードのようなもので、自分で観光ルートを作る方法もあると思う。

(事務局) 策定シート【3-2-4】に基づいて説明

(委員) 人材確保が大変厳しい状況であると実感している。企業のPRが足りないと感じており、企業とハローワークや行政などとの連携が必要と思っている。

(事務局) いくつかの企業に状況をお聞きすると、専任スタッフやノウハウも少ないこともあり、なかなか厳しいと聞いている。できる限り学生と会う機会を増やすようにしている。東信州の連携事業で小諸商業、上田千曲高校で、企業説明会を行った。そのような場をどんどん増やしていく。

(事務局) 策定シート【3-3-1】、【6-2-1】に基づいて説明

(委員) 行政と連携をとれるような専門性の高い人材を入れて、インバウンド対策なども対応することやバスの駐車場や別所線、三才山の無料化による道の駅の検討など、後期まちづくり計画ではどのように反映する予定か。

(事務局) 今回のいただいた意見を参考に、どのような形で後期まちづくり計画に反映できるのか検討していく。

(委員) 観光関係、魅力発信等の事業を行っているのは、行政だけでなく専門家を入れているのか。

(事務局) 行政で行っている。

(委員) 観光は、見せ方が大切と思い、プロの方に相談した方が良いと思う。

(事務局) 上田市観光マスタープランは、新規で策定予定であり、これを策定するにあたっては、プロの方に入ってください。「地域おこし企業人」が観光課に配属されている。その方の知見、技術をフルに活用していきたい。民間の力を活用して、インバウンドなど方向性を示し、進めていきたい。

4 事務連絡

(事務局) 第4回部会が1月17日(金)午後1時30分、会場、勤労者福祉センターとなる。

5 閉会(商工課長)

